

宇検村立名柄小中学校公開研究会

研究の構想

研究主題
 主体的に学び、思考力、判断力を身に付け、自分の考えを表現できる子どもの育成
 - 効果的なICTの利活用を通して -

子ども一人一人に確かな学力を身に付けさせるために、ICTを活用するという視点から研究を行う。教師自らが、ICT活用のためのスキル向上を図り、授業改善を行う。どの学習場面で、どのようにICTを活用すると効果的かを研究する。

- 本校の学校教育目標から**
- 本校では、「心豊かで、よく学び、心身ともにたくましい児童生徒を育成する。」を教育目標に掲げている。
 - 「よく学び」とは、目標を持ち、自ら学び、よく考え、進んで何事にも挑戦する子どもの姿である。
- 社会の要請から**
- グローバル化の進行や急速な少子高齢化、高度情報化社会などさまざまな変化に対応できる資質・能力が求められる。
 - 情報技術を活用し、これからの社会を主体的に生き抜いていくための能力が求められる。
- 教師の願いから**
- より深く考え、判断し、豊かに表現する力を身に付けてほしい。
 - 意欲的に学習に取り組み、自分の思いを豊かに表現できる力を身に付けてほしい。

- 新学習指導要領から**
- 「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を行う必要がある。
 - 学習の基盤となる能力（情報活用能力等）の育成には、教科等横断的な学習を充実する必要がある。
 - 知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成する必要がある。
- 子どもの実態から**
- 極小規模の複式学級で、対話による多様な意見の出し合いが難しい。また転出入も多く、継続した取組が子どもに浸透しにくい。
- 保護者の願いから**
- 学校で十分な学力を身に付けてほしい。
 - 子どもたちが楽しく学習できるように指導してほしい。

目指す子ども像、研究仮説、研究内容

	目指す子ども像	研究仮説	研究内容
導入	主体的に学習に取り組む子ども 	仮説① 導入の場面において、課題提示の方法を工夫することによって、子どもの学習に対する意欲を高めることができるのではないだろうか。	ア 問題場面をイメージする工夫 ・ 課題の焦点化 ・ ICTの利活用 イ 課題解決の意欲をもたせる工夫 ・ 生活に身近な課題を設定 ・ ICTの利活用
展開	自分の考えを持ち、それを深めたり広げたりすることができる子ども 	仮説② 問題解決の場面において、自分の考えを持ち、資料活用や意見交換によって、自分の考えを深めたり広げたりすることができるのではないだろうか。	ア 自分の考えを持たせる工夫 ・ 発問、指示の工夫 イ 資料活用の工夫 ・ ICTの利活用 ・ 資料提示の工夫 ウ 他者との意見交流 ・ ICTを利用した遠隔合同学習
終末	自分の考えをまとめ、相手に伝えることができる子ども 	仮説③ 終末の場面において、まとめ方や表現方法を工夫することにより、自分の考えをまとめ、相手に分かりやすく説明できるのではないだろうか。	ア 振り返り、まとめの工夫 ・ ICTの利活用 ・ キーワードや条件を絞って考えさせる イ 表現方法の工夫 ・ ICTを利用した遠隔合同学習

名柄小中学校におけるICT活用のねらい7観点（何のために活用するのか）

A	学習に対する子どもの興味・関心を高めるため
B	子ども一人一人に課題を明確につかませるため
C	子どもの思考や理解を助けたり、深めたりするため
D	情報を収集したり選択したりするため
E	分かりやすく発表させたり、表現させたりするため
F	繰り返し学習や練習によって知識の定着や技能の習熟を図るため
G	教員の教材準備の軽減のため

※ 指導案作成の際にはこの観点を必ず明記するようにしています。

公開授業

小3・4年



タブレットの画面を大型ディスプレイで示し、エラーケースについて子ども自ら考えさせる授業を実施しました。

小5・6年



黒板と大型ディスプレイを活用し、わたりの時間を効果的に生み出すなど、子どもの意識の流れを大切に授業を実施しました。

中3年



タブレットのシミュレーションソフトと模型を組み合わせ、天体の動きやそれに伴う現象についてバーチャルな体感をねらった授業を実施しました。

分科会



グループ討議の時間を充実させ、様々な意見をいただくことができました。参加された皆様の御協力に感謝いたします。ありがとうございました。

アンケートから

- エラーモデルが何回もあり、少人数でも考える機会が確保されていてよかったです。
- 4年生でもタブレットを使い、自ら学習を進められてよかったです。
- 自力解決も交流も工夫次第で可能であることが分かりました。
- なぜICTなのかと考えることが大切だと感じました。